

2025年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株) クレアメディコ	代表者	内田 邦彦	法人・事業所の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる健康を支え、人生の質を高める。 ・「医療・介護の原点はやさしさ」 上質な医療・介護を提供し、信頼され、選ばれる「さわやか苑」を目指し、地域医療・介護に貢献します。
事業所名	ALPHA さわやか苑 長倉多機能ケアセンター	管理者	田中 英明		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	1人	1人	1人	1人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動は継続し、主任、班長を中心に個々に役割を持ち実施していく。毎月月末に評価し全職員へ周知し全員で取り組んでいく。 ・サービス評価の主旨を全職員が理解した上で取り組んでいけるよう5月に改めて日々の取り組みと連動している事を認識してもらう。また、職員の入れ替わり等があったら都度説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から班から委員会と変更になったが変わらず主任、各委員を中心に取り組みを行っていく。 ・管理者変更につきサービス評価についての説明を5月に実施することが出来ず、今年度の自己評価実施の際に改めて全職員に対してサービス評価の主旨と現状の把握のためと説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員さんが事業所自己評価に取り組んでいることは伝わってきた。 ・次回の取り組みがしやすいのではないかと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と10月の期の初めの月例会議にてさわやか苑としての取り組み目標の周知を徹底していく。 ・事業所自己評価の重要性を全職員が理解したうえで日々の業務に望めるように前回同様5月に職員への周知を行う。また新人職員に対しても説明をもれなく行えるようにオリエンテーションに組み込む。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク班の環境整備係を中心に事故防止、感染対策の観点から苑内の整理整頓に努める。 ・苑内はレクの様子や作品作り等日々の様子が見えるよう掲示板を活用する。 ・苑外も定期的な雑草の処理、花壇作りを行う。 ・見学対応は都度受け付け、ご家族様だけでなく地域の方を招く等、希望がある方に案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月例会議の前後に苑内に清掃を環境委員会の主導で実施した。 ・苑外で花壇づくりや野菜の栽培を行い、収穫した野菜をご利用様と調理レクとして食べることが出来た、またその様子を撮影し苑内に掲示も行った。 ・利用を検討されている方の見学を受け入れた実績はあり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議をスペースの問題で小規模多機能の事業所ではなく向いのシルバーハウスで行っているため、会議後でも小規模多機能の見学を行ってもよいのではないか。 ・事業所の外壁の塗り替え、床材の張替え、テーブルと椅子の入れ替えをしたそうで、雰囲気が変わったと思おうので見てみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苑内や玄関の装飾、苑外の園芸や畑作りを継続的に行うことでご利用者様のやりがいを提供し、地域の方々との関係性作りにつなげ、さわやか苑に入りやすい雰囲気作りを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の活動への参加、雑巾プロジェクトの活動は継続し地域の方との交流を図る。 ・地域のコミュニティーセンターに職員が出向き地域の方との関係性を深めていく。交流を通し困 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の活動へは案内があった際は参加出来ていた。 ・雑巾プロジェクトに関しては縫える方が減ってきており今年度は実施できず。来年度再開を目指す。 ・さわやか苑新聞の作成は毎月実 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の方たちは必ず挨拶をしてくれているし、お世話になっていて感謝している。 ・町内の方からの相談が来ないようであればコミュニティーセンターに出向いてみるのはいかがでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑巾プロジェクトを再開させ年に2回の寄付を行う。 ・コミュニティーセンターに広報誌をファイリングしたものを置かせていただき定期的に追加し継続的な取り組みの周知を行っていく。

	<p>り事や介護相談等自分達ができる事があれば積極的に関わっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さわやか苑新聞は毎月作成し、取り組みや苑での様子を知っていただく。また、地域の方へ回覧板やコミセンに広報誌を置かせて頂き事業所取り組みを発信し知っていただく。 	<p>施、回覧板用も用意し回覧板にて各家庭に配布していただく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事などは町内会長さん、民生委員さんがよく知っているので、運営推進会議に町内会長さん、民生委員さんは出席していただきたい。曜日的に難しいのであれば曜日の変更も必要だと思う。 	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス等を通しご利用者様の地域の地域資源や施設周囲の資源について考える。アセスメントをする中でそのご利用者様に適する地域資源を活用していく。 ・イベント係を中心に地域資源を活用した外出レクを企画する。また、より多くのご利用者様が参加できるよう計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか苑利用前から活用していたケースとしてシルバー人材などが有ったが、新たに活用するというケースは無かった。 ・お花見、紅葉を見に悠久山公園に数日間に渡って全ご利用者様が出掛けることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような地域資源を活用していきたいか。 ・美園だが美園の行事にも参加できるのだろうか。 ・地元のスーパーに行くだけでも知り合いに会うことが出来て、意欲向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様やご本人様との日々の関わりの中で、その方々にとってより身近な地域との関りを探り、記録やカンファレンスで情報の共有をしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に多くの委員さんが参加できるよう1ヵ月前に案内を出す。出欠を確認し調整が必要な場合は3週間前に決定し再度案内する。 ・運営推進会議で頂いたご意見やアドバイスは会議後、他職員にも伝達し皆で地域に関わっているという意識をもつ。また職員も参加できるように勤務調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全委員が参加しての会議は一度も開催することが出来なかった。改善計画に挙げていた一ヵ月前の案内も行えていない。 ・一般職員の参加は職員配置の関係で参加できず。 ・運営推進会議の会議録を展開し職員への周知を計った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間予定を配布されているが、1週間前の周知では不参加の場合の調整が難しく、もっと早くに出してもよいのではないかと。 ・会議資料に広報誌が入っておりさわやか苑でのご利用者様の様子が分かりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に委員が全員参加していただくために、年間予定の配布とともに1ヵ月前の案内と調整を行う。 ・一般職員、介護主任の会議参加を実行するためシフト作成時に人員換算も考慮しながら配置を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時の備えは物品の不備や期限が切れていないか定期的に確認、緊急連絡網(LINE)も職員の入替わりの都度変更しご利用者様情報含め最新情報をそろえておく。 ・災害時、町内の方とも協力体制が図れるように情報交換を行っていく。施設の避難訓練に参加していただく機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時の物品、緊急連絡網、ご利用者様情報など自然災害BCPに則って定期的に更新を行っていた。 ・消防署参加の元、避難訓練の実施を年間で2度実施したが地域の方々の参加はかなわず。また地域の防災訓練等にも参加することが出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の際にご近所の方々に対して実施することを周知するか。 ・風水害の際に隣接しているシルバーハウスに二階があり一時的な避難場所として使用が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、緊急連絡網と職員の安否確認(LINE)を使い分け、伝達の訓練を定期的実施する。 ・町内の災害訓練に参加する、また災害時の情報交換のため運営推進会議を効果的に使用する。